



2023年10月4日（水）

株式会社ボーネルンド

～『スポーツの日』を前に小学生の「体育の授業」と「からだ遊び」に関する調査を実施～

75.4%が体育の授業が好きと回答。高学年では体育離れも

1年生 83.4%、6年生 69.8%と、高学年ほど「体育好き」が減少

「あそび」を通して子どもの健やかな成長に寄与することを目的に、教育玩具の輸入・開発・販売とあそび環境開発を行う株式会社ボーネルンド（本社：東京都渋谷区、取締役社長：中西みのり）では、10月第二月曜日の「スポーツの日」を前に、「体育の授業」と「からだ遊び」について、小学生の子どもを持つ全国の25歳～49歳の男女計1,194名を対象にインターネット調査を実施しました。

本調査は、「スポーツの日」のタイミングで、社会全体が子どものからだ遊びの大切さについて改めて考えるきっかけになることを願って実施したものです。今回、小学生のスポーツの機会である体育の授業や、からだ遊びに対する捉え方を調査したところ、小学生の75.4%が体育の授業が好き、78.5%がからだ遊びが好きと回答しました。一方で、高学年では体育の授業への好意度が低下傾向にあり、体育の授業が好きではない理由として、運動に対する苦手意識があることが明らかになりました。幼児期からあそびを通じてからだを動かす楽しさを知り、「できる／できない」ではなく、からだを動かすこと自体への好意度を醸成しながら運動に対する抵抗感を下げることで、より体育の授業が好きになると考えられます。

【 調査結果のポイント 】

■ 小学校の高学年では、体育離れが進行

- 小学生の75.4%が体育の授業が好き、78.5%がからだ遊びが好きと回答…Q1、Q5
- 学年別で比較すると、高学年では体育の授業が好きと回答する割合が減少（1年生：83.4%、6年生：69.8%。13.6ポイント差）…Q1

■ 体育の授業の好き / 嫌いな理由

- 体育の授業を好きな理由のトップは「からだを動かすことが好きだから（66.2%）」であるのに対し、嫌いな理由のトップは「運動が苦手だから（51.6%）」…Q2、Q3

■ 体育の授業 / からだ遊びの人気・不人気な内容

- 体育の授業で人気の内容は「球技（71.5%）」と「水泳（68.9%）」…Q4
- 体育の授業で不人気の内容は「鉄棒」と「跳ぶ種目」（ともに45.4%）…Q4
- からだ遊びで人気の内容は「走るあそび（75.7%）」、「からだ揺れるあそび（70.2%）」、「ボールやフライングディスクを使ったあそび（68.3%）」…Q5、Q6
 - ◇ 「体育好きではない」子どもの77.5%が、体育で走る種目は好きではないと回答した一方、33.0%が走るあそびが好きと回答。速さを競う種目ではなく、鬼ごっこのように走るあそびではハードルを感じにくいことがうかがえる…Q4、Q6

【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査

調査対象：小学1年生～6年生の子どもがいる25歳～49歳の男女。子どもの学年につき各199名

有効回答数：合計1,194サンプル

調査時期：2023年9月11日～21日

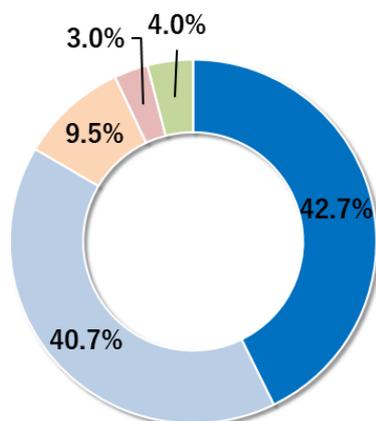
【 調査結果 】 ※構成割合は四捨五入をしているため、合計が100にならない場合があります。

小学生の7割以上が体育の授業が好きと回答。高学年では、体育が好きな割合が減少傾向

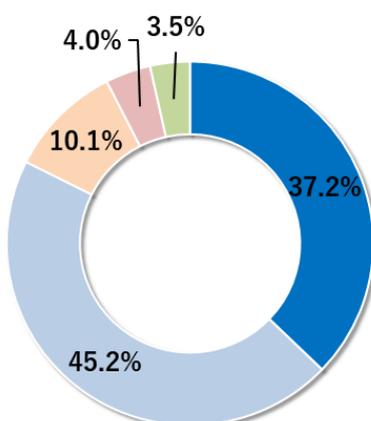
小学生全体では、回答者の7割以上（75.4%）が体育の授業が好き（「とても好き（33.4%）」と「まあ好き（42.0%）」の合計）と回答しました。1年生では、回答者全体の8割以上（83.4%）が、体育の授業が好きと回答しているのに対して、6年生では、体育の授業が好きという回答は7割以下（69.8%）まで低下しました。特に「とても好き」の回答割合について比較すると、1年生では42.7%の回答があったものが、6年生では23.6%と、約45%減少しています。高学年になると、体育の授業への好感度が下がることがわかりました。

Q1. あなたのお子様は、体育の授業が好きですか？（n=1,194）

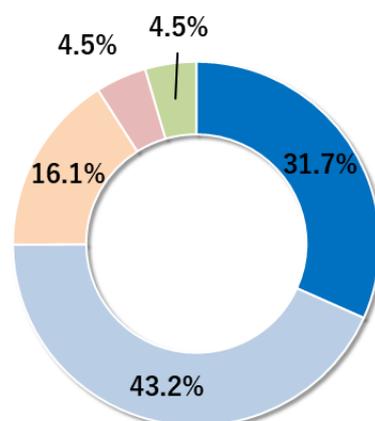
1年生（n=199）



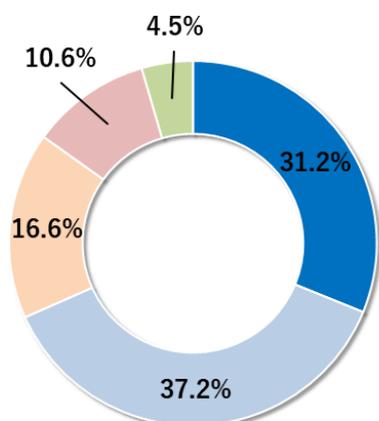
2年生（n=199）



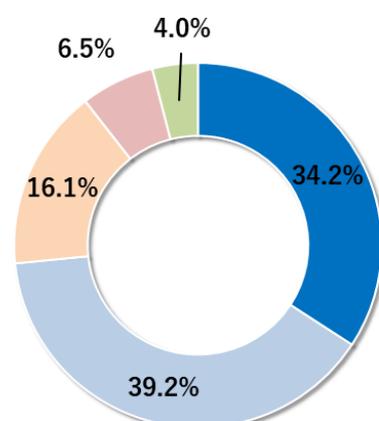
3年生（n=199）



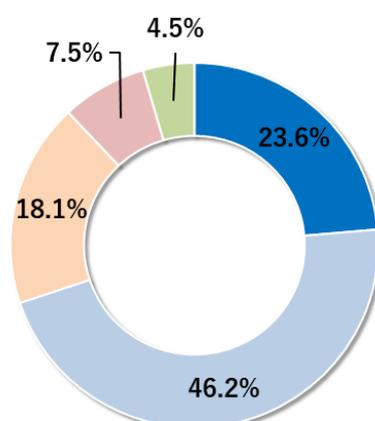
4年生（n=199）



5年生（n=199）



6年生（n=199）



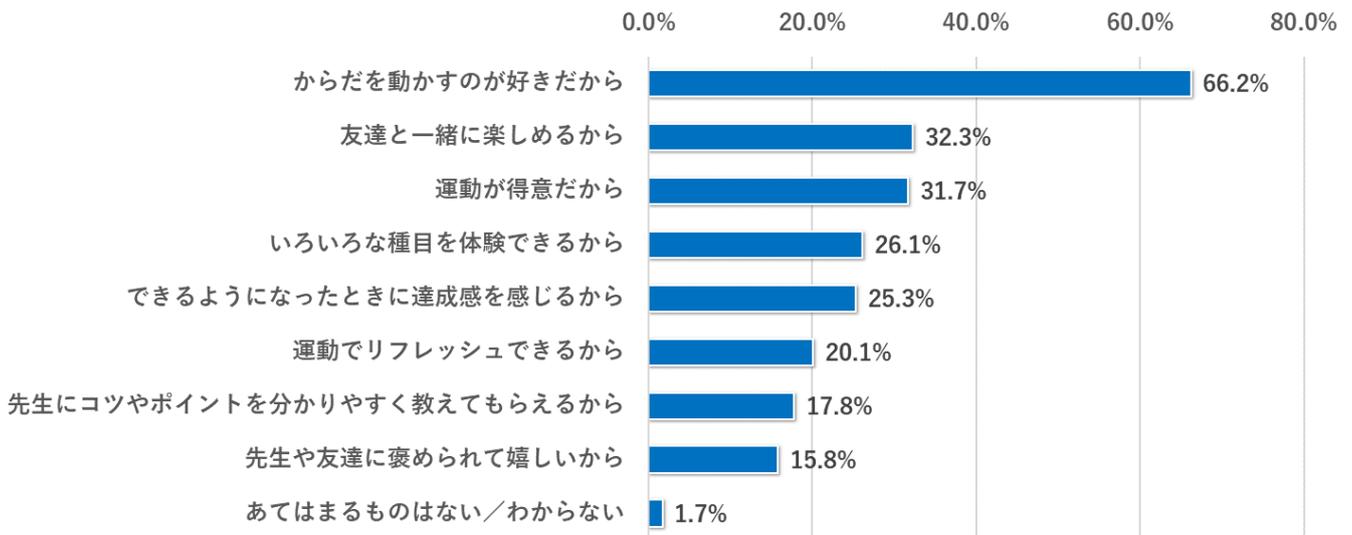
■ とても好き ■ まあ好き ■ あまり好きではない ■ 全く好きではない ■ わからない

体育が好きな理由は、「からだを動かすことが好き」が6割。

一方で、体育が好きではない理由の半数は「運動が苦手だから（51.6%）」

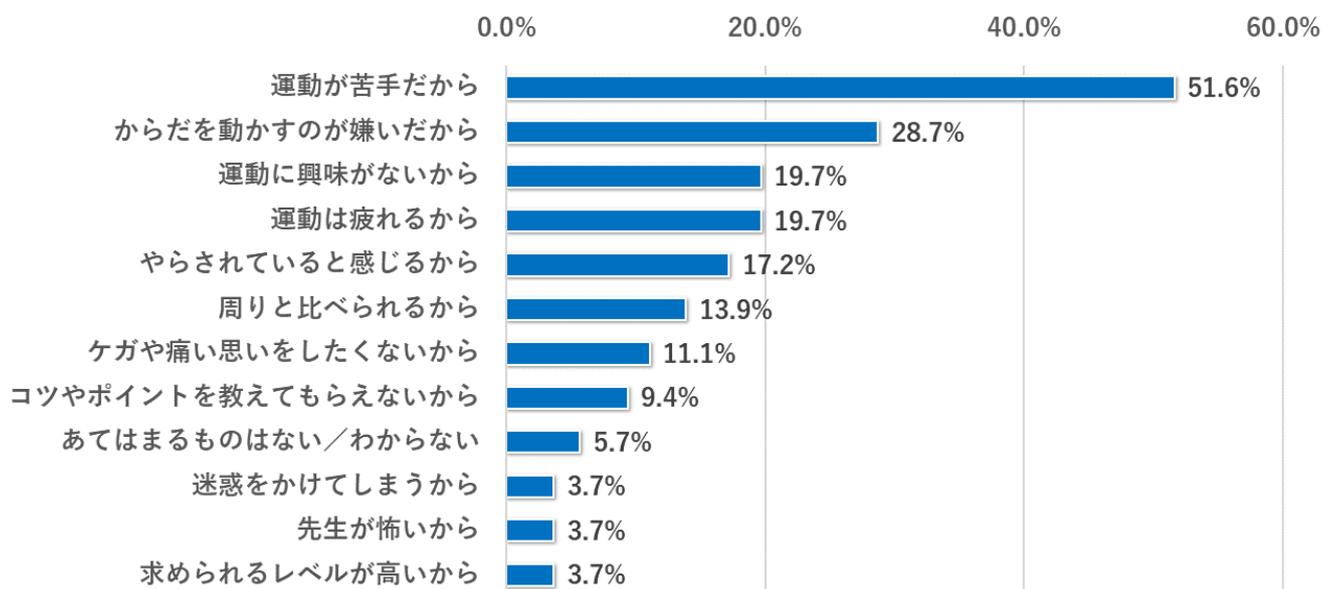
体育の授業が好きと回答した 900 名に、好きな理由を聞いたところ、「からだを動かすのが好きだから（66.2%）」がトップ。次いで「友達と一緒に楽しめるから（32.3%）」、「運動が得意だから（31.7%）」と続きました。「先生や友だちに褒められて嬉しいから（15.8%）」という回答は最も低い状況でした。体育の授業が好きな子どもは、周囲からの評価よりも、純粋にからだを動かす楽しさにモチベーションを感じやすく、クラスメイトなどの友だちと一緒に取り組むという楽しさも後押しになっていることがわかります。

Q2. 体育の授業が好きな理由として当てはまると思うものはどれですか？※複数回答（n=900）



一方で体育の授業が好きではないと回答した子どもに理由を聞いたところ、「運動が苦手だから（51.6%）」がトップ。次いで「からだを動かすのが嫌いだから（28.7%）」、「運動に興味がないから（19.7%）」、「運動は疲れるから（19.7%）」、「やらされていると感じるから（17.2%）」と続きました。運動に対する苦手意識が半数を占めることがわかります。

Q3. 体育の授業が好きではない理由として当てはまると思うものはどれですか？※複数回答（n=244）



好きな体育の授業内容では、「球技」と「水泳」がそれぞれ6割。

不人気の体育の授業内容は、「鉄棒」と「跳ぶ種目」、「跳び箱」がそれぞれ4割。

体育の授業が「とても好き」「まあ好き」と回答したグループを「体育好き群」、「あまり好きではない」「全く好きではない」と回答したグループを「体育好きではない群」として、体育の授業内容について意識を聞きました。

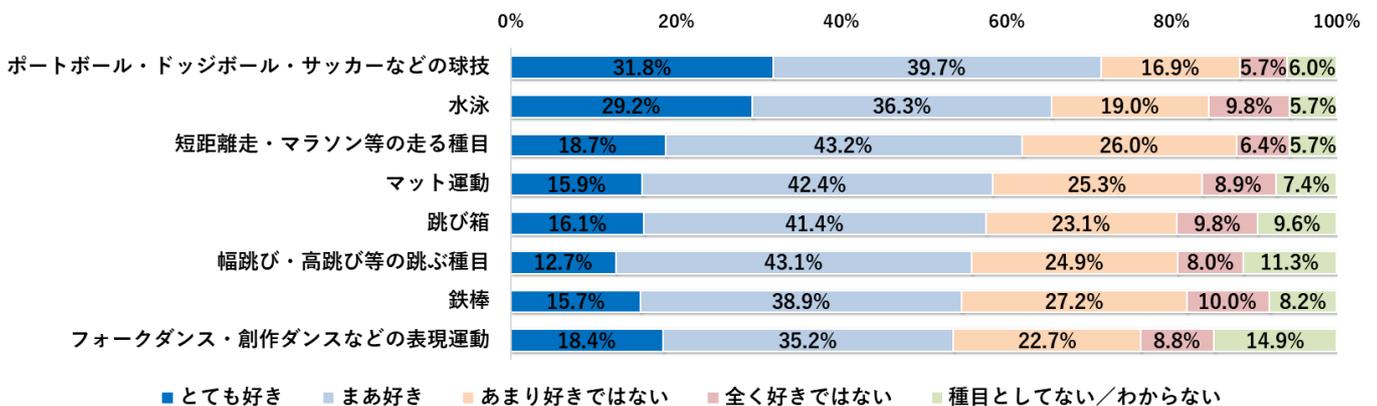
好きな内容として、体育好き群では「ポートボール・ドッジボール・サッカーなどの球技」が71.5%でトップ。次いで「水泳（65.5%）」、「短距離走・マラソン等の走る種目（61.9%）」と続きました。一方、体育好きではない群では「水泳（34.4%）」、「ポートボール・ドッジボール・サッカーなどの球技（25.0%）」、「フォークダンス・創作ダンスなどの表現運動（22.1%）」となりました。小学生全体でも6割以上が「球技」と「水泳」を好きと回答し、人気の内容であることがわかります。

一方で、好きではない内容は、体育好き群では「鉄棒」が37.2%でトップ。次いで「マット運動（34.2%）」、同率で「幅跳び・高跳び等の跳ぶ種目（32.9%）」と「跳び箱（32.9%）」となりました。また、体育好きではない群では「鉄棒」と「幅跳び・高跳び等の跳ぶ種目」がともに79.1%でトップ。次いで「跳び箱（77.9%）」、「短距離走・マラソン等の走る種目（77.5%）」となりました。小学生全体でも「鉄棒」と「跳ぶ種目」、「跳び箱」の回答はそれぞれ4割程度と、不人気の内容であることがわかります。

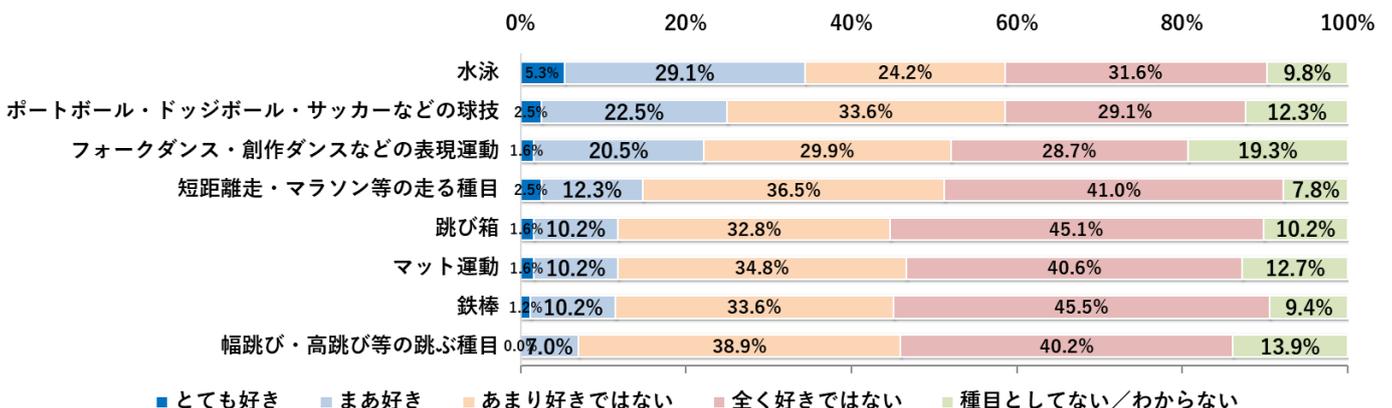
Q4. あなたのお子様が、体育の授業で好きな内容は何ですか？

それぞれの内容について、どのくらい好きか次の選択肢からお答えください。

「体育好き群」 (Q1. 体育の授業が「とても好き」「まあ好き」の回答者 n=900)



「体育好きではない群」 (Q1. 体育の授業が「あまり好きではない」「全く好きではない」の回答者 n=244)

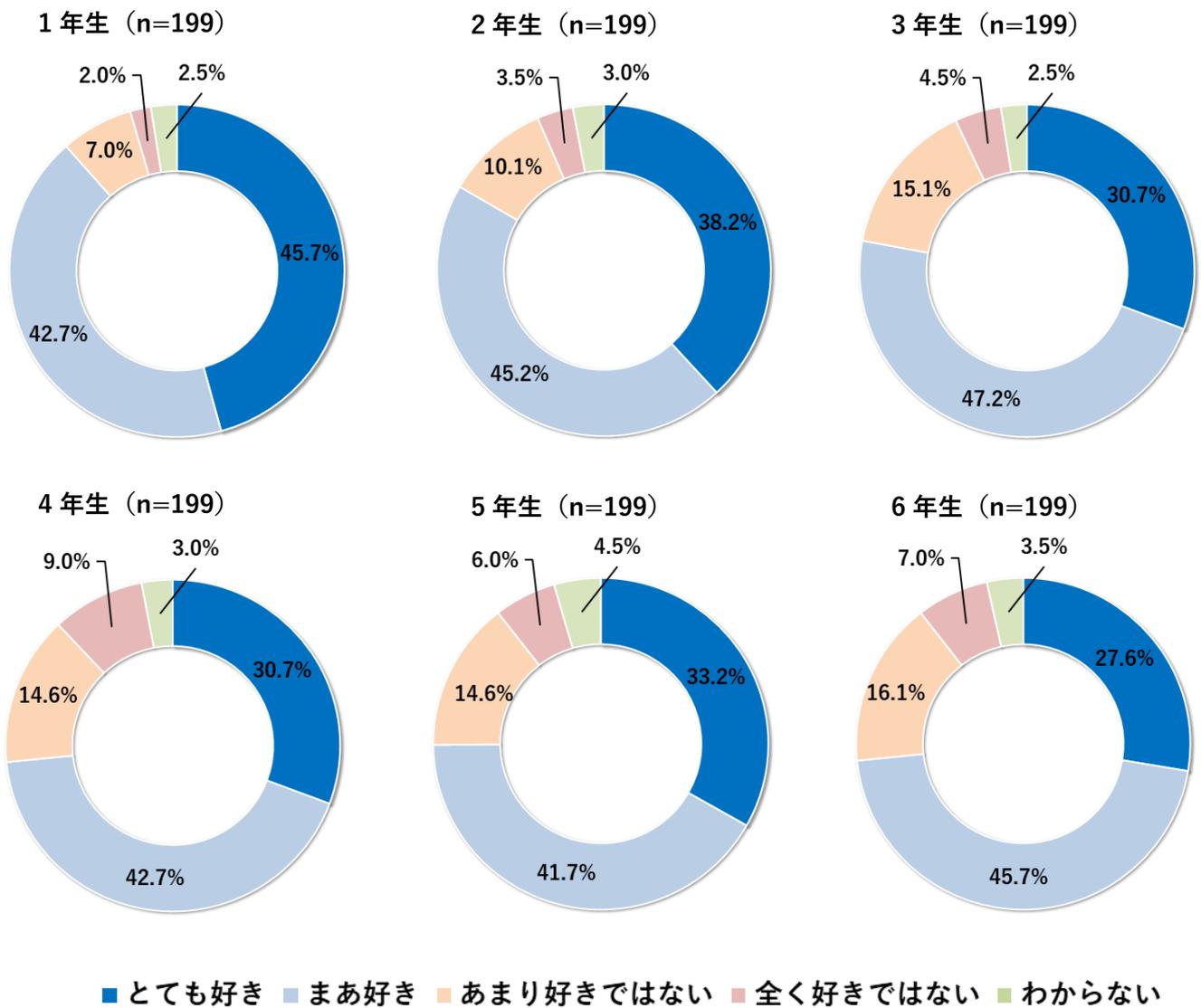


小学生の7割以上がからだ遊びが好きと回答。高学年では、からだ遊びが好きな割合が減少傾向

休み時間や休みの日に、からだを動かして遊ぶことについて聞いたところ、小学生全体では、回答者の7割以上（78.5%）がからだ遊びが好き（「とても好き（34.3%）」と「まあ好き（44.2%）」の合計）と回答しました。

1年生では、回答者全体の9割近く（88.4%）が、からだ遊びが好きと回答しているのに対して、6年生では、からだ遊びが好きという回答は7割程度（73.3%）に低下しました。特に「とても好き」の回答割合について比較すると、1年生では45.7%の回答があったものが、6年生では27.6%と、約40%減少しています。Q1の体育の授業に対する態度と比較すると、からだ遊びの方が各学年とも、やや好感度が高い水準ではありますが、それでも高学年になると、からだを動かして遊ぶことへの好感度が下がることがわかりました。

Q5. あなたのお子様は、休み時間や休みの日に、からだを動かして遊ぶのが好きですか？（n=199）



好きなからだ遊びの内容では、「走るあそび」「揺れるあそび」「ボールあそび」がそれぞれ約7割

休み時間や休みの日にからだを動かして遊ぶのが好きかという質問に対して「とても好き」「まあ好き」と回答したグループを「からだ遊び好き群」、「あまり好きではない」「全く好きではない」と回答したグループを「からだ遊び好きではない群」として、課外のからだ遊びについて好きな内容を聞きました。

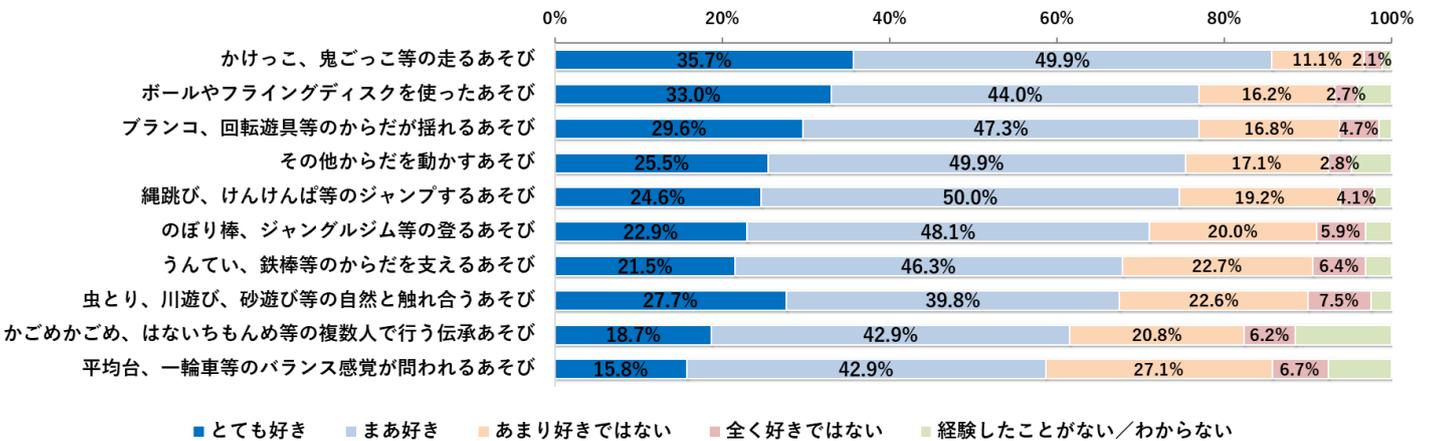
小学生全体では、「かけっこ、鬼ごっこ等の走るあそび」が75.7%でトップ。次いで「ブランコ、回転遊具等のからだ揺れるあそび(70.2%)」、「ボールやフライングディスクを使ったあそび(68.3%)」となりました。からだ遊び好き群では「かけっこ、鬼ごっこ等の走るあそび」が85.6%でトップ。次いで「ボールやフライングディスクを使ったあそび(77.0%)」、「ブランコ、回転遊具等のからだ揺れるあそび(76.9%)」と続きました。また、からだ遊び好きではない群では「ブランコ、回転遊具等のからだ揺れるあそび(40.9%)」、「かけっこ、鬼ごっこ等の走るあそび(33.0%)」、「ボールやフライングディスクを使ったあそび(30.2%)」となり、いずれのグループもトップ3が同じ内容構成となりました。

Q4の体育の授業と比較すると、走る項目の人気度が高く、走ること自体を目的として速さを競う種目ではなく、鬼ごっこのように別の目的のための手段として走るあそびの方が「走る」という行為に対するハードルを感じにくいことが伺えます。

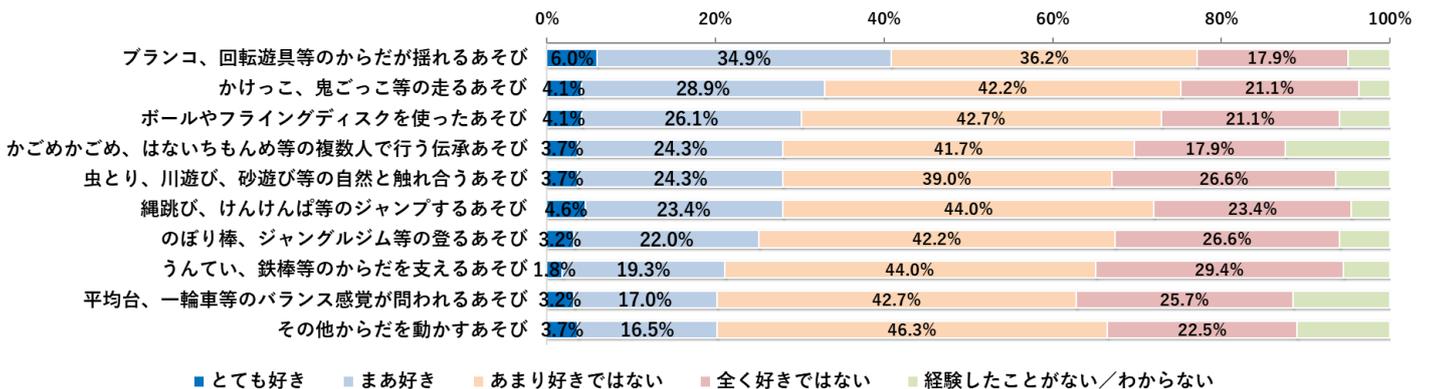
Q6. あなたのお子様は、からだを動かすあそびでは、何をして遊ぶのが好きですか？

それぞれのあそびについて、どのくらい好きか次の選択肢からお答えください。

「からだ遊び好き群」 (Q5. からだを動かして遊ぶのが「とても好き」「まあ好き」の回答者 n=938)



「からだ遊び好きではない群」 (Q5. からだを動かして遊ぶのが「あまり好きではない」「全く好きではない」の回答者 n=218)



【 調査まとめ 】

今回の調査から、小学校の高学年では体育の授業に対する好意度が低下傾向にあることがわかりました。また、体育の授業が好きな子どもは、周囲からの評価や技能的向上よりも、純粹にからだを動かすことや友達と一緒に取り組む「楽しさ」にモチベーションを感じやすい一方で、体育の授業が好きではない子どもは、運動に対する苦手意識が大きな理由になっていることが伺えました。

子どもがより体育を楽しめるようになるためには、幼児期からあそびを通して多様な体の使い方を知り、体を動かす楽しさを見出し、能動的な運動を習慣化していくことが重要と言えます。しかし、都市開発や規制の強化により、子どもが自由に外で体を動かして遊べる環境が減少している現状があります。当社では、体を動かすことの楽しさを体感できるあそび環境づくりを一層推進してまいります。

● 子どもが思い切り体を動かして、主体的に遊べる室内あそび場「キドキド」

「キドキド」は、あそび不足に対する解決策の一つとして2004年にスタート。発達段階に応じた多様なあそびを存分に楽しめるよう工夫をこらして設計した、親子のための室内あそび場です。常駐するスタッフ「プレイリーダー」が、子どもの発達や成長を促すあそびの見本を示して子どもたちの多様な体の動きを引き出し、親子のあそびをサポート。子どもはのびのびと遊び育ち、大人は子育てがもっと楽しくなる場として支持されています。



● ボーネルンドのあそび環境づくり事例：リポビタンキッズ ^{プレイロット} PLAYLOT by Bornelund (北海道北広島市)

北海道日本ハムファイターズの本拠地として使用されているエスコンフィールド HOKKAIDO が所在する北海道ポールパーク F ビレッジのオープンに際して、当社が運営する施設の中では最大となる床面積 1,930 m²の屋内外あそび場『リポビタンキッズ PLAYLOT by Bornelund』をオープンしました。誰にとっても居心地の良い子育てコミュニティになることを目指し、誰もが夢中で楽しめるインクルーシブな場となるよう設計し、特に「あそび×スポーツ」をテーマに幅広い年齢の子どもたちが天候に左右されずに楽しめる環境を整えています。



● 自治体との協業によるあそび場プロデュース：おしろらんど (山梨県甲府市)

山梨県甲府市は、「こども輝くまち」を目指したまちづくりを推進し、子育て・子育て支援を積極的に行っています。2020年には「甲府市子ども未来応援条例」を制定。その一環として、このたび、遊びながら体力づくりができる運動遊びの拠点 甲府市子ども屋内運動遊び場「おしろらんど」を当社と協業開発しました。「おしろらんど」は、子どもの運動能力の向上のために、施設の約半分を運動遊びのエリア「アクティブエリア」とし、36の基本的な動きをベースとした動作の多様性を引き出すことに焦点を当てたデザインや設置遊具を導入しています。



● ボーネルンドのあそびが教育現場に導入された事例：横浜国立大学附属横浜小学校 (神奈川県横浜市)

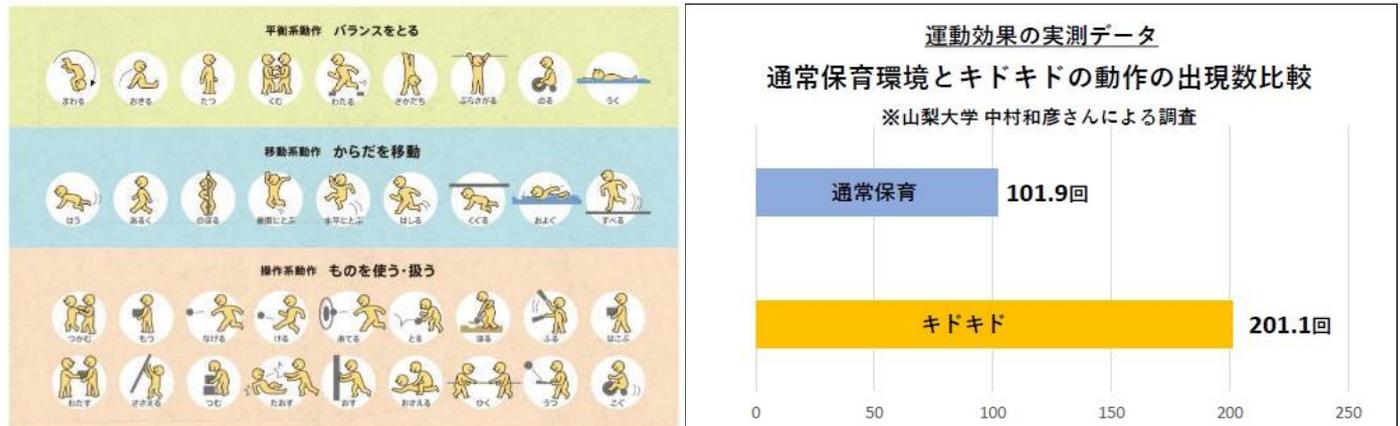
キドキドで大人気の大型トランポリン「エアトラック・ファクトリー」が、横浜国立大学附属横浜小学校の体育の授業で使用されました。柔らかいので転んでも痛くなく、安全に思いきり遊べるのが魅力のこの遊具。子どもたちは、ぶつかって痛い思いをするなどの運動への苦手意識を持つきっかけとなってしまう失敗を恐れずに、安心して跳び乗る・跳び越える等様々な運動に挑戦することができました。授業後には、エアトラックで遊んだ経験が活きて、実際に跳び箱が跳べるようになったという声も。当社は、教育現場にも「あそび」を取り入れ、子どもたちに体を動かすことの楽しさを伝えるサポートをしたいと考えています。



● ボーネルンドのあそび場の運動効果について（36の基本的な動き）

山梨大学 学長の中村和彦さんの研究によると、人間の体の動きは以下の 36 種類に分類できます。当社のあそび場ではこのうち 20 種類以上の動きをわずか 30 分で体験できることが、中村和彦さんによる調査でわかっています。また、ボーネルンドのあそび場で遊ぶことには、通常保育と比較して、跳ねる・転がる・くぐるなどの動きの出現数が約 2 倍という高い運動効果があることも証明されています。

36の基本的な動き



【 ボーネルンドについて 】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健やかな成長に寄与するため 1981 年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国 58 ヶ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などで、高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約 3 万 5 千ヶ所まで拡大しています。また、2004 年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる屋内あそび場「キドキド」事業をスタートし、現在では「プレイヴィル」「プレイロット」を含む直営のあそび場全国 21 ヶ所、年間 200 万人以上の親子にご利用いただいています。さらに「キドキド」のノウハウを取り入れた自治体のあそび場を全国に 70 ヶ所以上開発し、街の活性化にも寄与しています。

【報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社ボーネルンド 広報部
担当：西山、村上
TEL：03-5785-0860、080-9868-7091
e-mail public-relations@bornelund.co.jp

【一般の方のお問い合わせ先（ご掲載用）】

株式会社ボーネルンド
TEL: 0120-358-518（月～金 10:00～17:00）